第149話 湯殿山信仰 その２

中山町 歴史散策

湯殿山を主として月山、羽黒山に詣でるには、庄内においては大網、手向、七五三掛の三口、内陸地方では、最上川を下り清水から肘折に出る道、天童、寒河江より白岩、間沢を経て本道寺、岩根沢（現西川町）に至る道、伊達、相馬、関東からは桑折（福島県伊達郡）より槽下宿、上山、山形、それより山辺、岡、平塩、左沢、柳川を経て大井沢に至るもの、山形より船町渡しを越えて長崎、平塩、左沢で山辺からの脇街道と合流、一部は坪景（大江町）を経て上野に出、白岩道に加わった行者衆もあったようです。

越後街道の行者は日本海沿いに庄内に出て山添（現鶴岡市）から熊出、大網口を通っています。このほか、伊達仙台からは二口峠、笹谷峠を越え、寺津河岸に出た行者もいたようです。

寒河江、慈恩寺を過ぎるとすぐに湯殿山道があるので、街道沿いの女、童から、盛んに撒銭を乞われて行ったことだろうと想像できます。

当町においては、上町の光秀院は福島の信夫郡、伊達郡の行者宿を務め、京都伏見から中山氏が勧請した「館稲荷神社」の別当である昌常院などの修験者は、行者衆に宿をひらき、参詣の先達となったほか、降雨や大風の日には多くの商家や大高持も宿を提供したことだと考えられます。

【用語の説明】

行者：修行する人。行人。

勧請：神仏の像などを寺社に新たに迎えて奉安すること。

※引用　中山町史　中巻　第10章第1節　庶民と信仰

私たち地域おこし協力隊です！ No.16

こんにちは。旧柏倉九左衛門家の特別公開が無事に終了し、ほっと一息ついている協力隊です。（特別公開には過去最高の約2700人もの方にお越しいただきました、ありがとうございました！）

仏像を厨子から出す前

必殺道具を使って作業中

その旧九左衛門家の特別公開中、協力隊サジキは岡地区にある岡観音堂で仏像の調査に参加していました。メインの調査は、本尊（※１）である十一面千手観音立像（※２）です。高さが180センチと大きい像で、町の文化財に指定されています。それも記念すべき第一号！この観音像、これまで制作した時期が諸説あり、詳細がはっきりしていませんでした。

そこで今回、教育委員会が木製彫刻文化財保存修復研究所や東北芸術工科大学の先生に依頼し、構造や制作年代を明らかにする調査を行いました。調査の中で一番大変だったのは厨子（※３）から仏像を出す作業。大人４、５人で抱えないと動かせないため、最新の必殺道具を使いつつ、１時間ほどかけて出してきました。

今回は年代を特定するために科学的考察と美術史的考察の２つを合わせて総合的に判断する予定です。調査結果が気になるところですが、結果は・・・秋以降に判明する予定です！！ドキドキするー。

調査は専門家にお願いし、私は協力隊として、地域で暮らしていた人達と岡観音堂の仏像や絵馬等の繋がりを明らかにしていきたいなと思っています。旧柏倉九左衛門家の痕跡ももちろんありましたので、そこら辺も、ね！どんな調査をしたかについては、また別の機会で町の皆さんにご報告したいなと考えています。

※1. 本尊＝そのお寺で最も尊いとされる像
※2. 十一面千手観音立像＝11の顔とたくさんの手を持ち立つ姿をした観音様を表現した像。ちなみに、実際に1000本の手を表現する像はほぼないです。（あることにはある）
※3. 厨子＝仏像を収める木製の入れ物